

2019年7月9日 山陽新聞

タルボサウルス出張展示

シティミュージアム・13日から大恐竜展

岡山理大生が標本組み立て

13日に開幕する「よみがえる地球の覇者！

世界大恐竜展」を前に、会場の岡山シティ



ミュージアム（岡山市北区駅元町）で7日、理科大（同理大町）の

タルボサウルスの全身骨格標本を組み立てる岡山理科大の学生ら

学生たちが、アジア最大の肉食恐竜タルボサウルスの全身骨格標本の組み立てを行った。

全長10メートル、高さ2.8メートルに及び標本は、モンゴル・ゴビ砂漠で恐竜化石調査を続ける同大の学生らが昨年度制作。部品の分解、組み立てが容易な構造で、今回が初の出張展示となる。石垣忍教授ら教員、学生約20人がFRP（繊維強化プラスチック）製のパーツ約140個を一つ一つ

支柱にひもでいっぺりけるなどして、3時ほどかけて組み立てた。

ゴビ砂漠で発掘された全身化石の色合い鋭い牙まで忠実に再現し、二本足で立つ姿今にも動き出しそう。3年相内説允さんの「は「迫力満点の姿を近く見て、実際に生で、歩いていた時代想像してもらえたら」と話した。

同展はRSK山陽送、山陽新聞社など催、こくみん共済coop岡山特別協賛。月1日まで。

（多田和代）
岡山シティミュージアム